

# ぞうしがやフレーザーパーク通信 2020.11.29

◇日時：2020年11月29（日）午前10時30分～午後3時

◇天気：晴れのち曇り

◇場所：豊島区立雑司が谷公園（芝生広場）

◇参加：120人程度

◇スタッフ：早川、水越（糸掛け曼荼羅）、浜野、佐分、坂田、（午前のみ）清永

◇来訪者：（民生児童委員）高野さん他5名、（南池小）中村さん、（豊島区社会福祉協議会）熊谷さん

◇企画：糸掛け曼荼羅、木工・段ボール工作、

◇寄贈：毛糸・貝殻（中村さん）

◇みられた遊び：木の実を使った遊び・工作、段ボール工作、ガムテープの芯を転がす、木工、落ち葉遊び、糸掛け曼荼羅

◇簡単報告：

◆全体的に、穏やかでのどかな開催だった。

◆民生委員の方に、初めての来訪者や戸惑っている方への声かけや、チラシの案内をお願いした。皆さん、養生テープでニックネームを書いて名札にして、思わず顔がほころび、楽しそうだった。段ボールアートが趣味の方がいて、さりげなく段ボールのロボットを作り、置いてくださった。子どもたちの遊びのきっかけになっていた。

◆糸掛け曼荼羅では、お昼ご飯の休憩をはさんで作り続ける姿が見られた。励まさなくても、それぞれが勝手に頑張っていて、保護者の方が「声がかげにくらい集中している」と言うほどの、すごい集中力だった。本人から湧き上がる「やりたい」のエネルギーを感じました。また、保護者に積極的に声をかけて巻き込んでいきました。

◆長い段ボールと、ガムテープの芯がたくさんあったので、プレーリーダーが転がす短いルートを作った。それがきっかけとなって、子どもたちが色々なものを転がしていた。

◆風対策として、敷物のシートを木の枝で作ったペグで固定した。

◆リピーターや、グループで来ている方も何組かいた。新宿区（早稲田方面）からの来訪者も結構いる。（高南小の児童の友人関係か？）

◆南池小中村先生が、材料を持参し、インディアンクロスの作成コーナーを設けてくださった。

◇注意事項：

◆糸掛け曼荼羅のゾーン（釘使用あり）と、木工のゾーン（釘使用の想定なし）の空間が隣り合っていたので、糸掛けの材料（板、釘）を木工に使う人もいた。落ち釘は怪我につながる可能性もあるので、その場のスタッフの機転で、持ち出す人に、釘の数を確認し、散らばったり、行方不明の釘が出たりしないよう注意喚起した。次回以降、ハザード（予測できない危険）による思わぬ事故を避けるため、釘を使用する活動を行う場合には、釘の使用を想定していない場所から物理的に離す、ゾーニングを行う必要がある。

◆また、今回は板の数が少なかったため、他の事に使われて足りなくならないように、養生テープで「いとかけ用」と目印をしておいてもよかった。

◆【プレーワーカーより】出す素材の用途を限定して出すのか、いかようにも使えるもの（ルースパーツ）として出すのかは、その時の意図、出す場所、出し方、ゾーニングや場の設定で変わってくる。けがにつながりにくい段ボールや木の実などのルースパーツは、なるべく何に使ってもいいように出した方が、遊びが広がっていくが、釘や工具は、管理や出し方に工夫が必要。今後も、ひきつづき朝の打ち合わせで相談しながら、場の設定を考えたりスタッフ間で共有したりしていきたい。

◇次回（12月27日）に向けて：

◆準備するもの：1～3月のチラシ作成・印刷、木工用ボンド、火の使用について区と打ち合わせ

